



令和8年4月1日
大田区立羽田小学校
校長 神原 丈夫

開校123周年 地域とともに歩み、まちづくりの拠点となる学校
～羽田の古(いにしえ)と未来、新たなステージへ～
コミュニティ・スクール ウェルビーイング・チーム HANEDA

1 経営方針

複雑化・多様化するこれからの未来社会において、笑顔とあたたかさあふれる未来を創り出す力をこどもたちに育てるために学校はどうあるべきか、学校は何のためにあるのかを問い直す。

- (1) こどもの意欲や資質・能力の育成を図り、創造性と可能性のある学校づくりを目指す。
 - ・「学びの保障」「楽しさの保障」を行い、主体的に取り組むこどもを育成する。
- (2) コミュニティ・スクール機能の充実を図り、学校・家庭・地域がともにある学校づくりを目指す。
 - ・信頼と連携でつくる「チーム HANEDA」のチーム力を高め、ウェルビーイング(心身ともに健康で幸せな状態)な学校をつくる。
- (3) 全教職員が、健康で幸せに働く、笑顔あふれる豊かな教育活動を展開する。
 - ・ライフ・ワーク・バランスを考えた働き方の推進、心理的安全性の高い職場づくり

2 学校教育目標

- ◎いのちをだいじにする子
- こころをだいじにする
- まなびをだいじにする子
- からだをだいじにする子

3 目指す学校像

- ◎こどもも大人も「学び合い、支え合い、高め合える」学校
 - ～幸せに生きることができ力を高める学校～
- こどもが、自他のよさを実感できる学校
- 教職員が、こどもの成長を目指していく学校
- 保護者・地域が、こどものよりよい成長とともに考え、ともに育てていく学校

4 目指す児童像

- 「自分も相手も大切にすることができる子」
- 「自ら考え、伝え合うことができる子」
- 「自分の心身に関心を持ち、高めることができる子」

5 目標実現のための主な方策

(「おおた教育ビジョン」2024(令和6年度)～2028(令和10年度)に基づいた課題の明確化)

- (1) 未来を創造的に生きる力の育成
 - 【令和8・9年度 東京都教育委員会 人権尊重教育推進校】
 - 問題を解決する力、新たな価値を創造する力の育成
 - 主体的に考え、行動し、協働していく力の育成
 - 情報活用能力の育成
- ① STEAM 教育、探究の教科等横断的な学び

- ・大学や企業と協働した「STEAM 教育」の推進 新たな価値を創造する力の育成
- ・教科などでの学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な教育
- ・教科「おおたの未来づくり」に関する取組を全学年で実践

② 主体的に考え、行動し、協働していく力の育成

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実装、探究する力を育てる問題解決的な学習の推進
- ・読む力、想像する力、考える力を育成するための機会確保(読書 音読 新聞活用 NIE タイム)
- ・キャリア教育で育てる4つの能力を明確にした特別活動、総合的な学習の時間等の取組
- ・学校行事を核とした活動を通して、児童が目標や見通しをもち取組状況を振り返るキャリア・パスポート

③ 情報活用能力の育成

- ・ICT 機器を活用した授業改善及びプログラミング教育の推進及び情報モラルの習得
- ・情報収集・整理・分類・まとめ・表現に主体的に利活用
- ・個別最適な学びのため、特性に応じ、自分で選んだ方法で、個々のペースでの活用法
デジタルとアナログのよさを踏まえた上での、効果的な利活用。選択肢を増やし、自分で決める。
- ・協働的な学びのため、共有・コミュニケーションツールとしての活用。人から学び、人に伝え、情報を共有し、練り上げ、創る。

(2) 世界とつながる国際都市おおたを担う人材の育成

○英語力の向上とコミュニケーション能力の育成

○郷土の伝統・文化の尊重と、異なる文化・価値を理解しともに生きる態度の育成

○持続可能な社会を形成していく態度の育成

① 外国語担当教員が中心となって外国語教育指導員を活用し効果的な指導方法を探る国際理解教育の推進

- ・5・6年生の外国語科、3・4年生の外国語活動、1・2年生の大田区外国語活動の確実な実施

② 多様性を尊重しながら、ともに生きるこどもの育成

- ・生命の尊さ、自他の人権を尊重する人権尊重教育の推進

【令和6・7年度 東京都教育委員会人権尊重教育推進校】

- ・東京都の「人権教育プログラム」を活用した授業実践及び日常的な取組の充実
- ・地域への愛着や誇りを育む教育
- ・羽田の伝統を継承、自分ごととして進化させる羽田の祭り学習と歴史学習
- ・児童一人一人の社会的・職業的自立の基盤となる資質・能力を育てるキャリア教育の推進

(3) 一人一人が個性と能力を発揮するための基礎となる力の育成

○豊かな心の育成

○誰一人取り残さない、確かな学力の育成

○健やかな体の育成

○乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育の充実

① 特別の教科 道徳の充実 「考える道徳」「議論する道徳」の授業改善

- ・道徳授業地区公開講座は「生命尊重」をテーマに行い、家庭・地域が一体となった「心の教育」を推進

② 児童の人間形成、社会参画、自己実現を図る特別活動の充実

- ・楽しい学校生活をつくろうとする自主性、自発性を伸ばす当番活動、係活動、クラブ活動、委員会活動。
- ・同学年・異学年の交流、委員会活動やクラブ活動、副籍児童との交流、保育園・幼稚園との交流などの活動を通して
互いのよさに気付き、人と関わることの楽しさを味わわせ、思いやりの心を育成
- ・自分たちの学校(学級)は、自分たちでつくるを意識させた自主的、実践的な活動の推進
- ・3年生から6年生まで、年間2回実施する「WEB QU 調査」を学級経営に活用

③ 日常の挨拶の徹底(語先後礼、相手の目を見て、笑顔で挨拶)

・挨拶、返事、正しい言葉遣い「羽小は心のオアシスサ」

(オ:おはようございます ア:ありがとうございます シ:しつれいします ス:すみません サ:さようなら)

④ 誰一人取り残さない、確かな学力の育成

・各教科・領域を通して基礎的・基本的な内容の定着と思考力・判断力・表現力の育成

・授業改善推進プランを踏まえた「主体的・対話的で深い学び」の実装のための問題解決的な学習の推進

・教科担任制(交換授業)による、授業の質の向上や児童一人一人の学習内容の理解度・定着度の向上

・計画的な朝学習及び漢字の基礎・基本の反復学習の徹底による大田区小学生漢字検定学校全体の合格率85%以上の達成

・読む力、想像する力を育成するための機会確保(朝読書 読み聞かせ 音読 新聞活用 NIE タイム)

・1年生からの算数習熟度別少人数指導による発展的学習と補充的学習

・タブレット端末を活用したドリル学習や東京ベーシック・ドリル(学校全体の正答率85%達成)等の実施

・読みのつまずきへの早期発見・早期支援の充実を図るために、「まなびポケット」の多層指導モデル MIM を活用

・個人の学習カルテを活用しての三者面談の実施

・3年生以上(3学期には2年生も実施)週一回の放課後補習(羽田っ子塾)

・発達段階に応じたノート指導の徹底(学年で統一)

・探究的学びへつなげる自主学習による家庭学習の工夫・定着

⑤ 日常的に体力・運動能力を高めようとする学校全体としての取組の推進

・基本的な生活習慣の確立

・5月、10月、2月に実施する「早寝・早起き・朝ごはん」の定着、主体的な取組の工夫

・大田区小学生駅伝大会を視野に入れた、持久走、長距離の日常的な取組(マラソン月間・体育授業の帯時間)

・運動能力を高めるための外遊び(中休み25分制による外遊び:ワンアップタイム)の実施

・運動に興味をもたせるアスリートとの連携・交流(体育・健康教育授業地区公開講座、笑顔と学びの体験活動プロジェクト)

・学級活動、家庭科、保健体育、給食の指導などを通して、健康増進にかかわる食育の充実を図る。

・小中一貫教育の推進(羽田中との連携)

・保幼小の連携(弁天橋保育園、羽田保育園等との連携)

(4) 学校力・教師力の向上

○新たな授業モデルの構築と深い学びに向けた教師の授業力の向上

○学校の組織的な運営力の向上

○学校における働き方改革による教育職の魅力の向上

・言語環境を整え、教員の言葉が、教育環境に大きな役割を担っていることを自覚

① 教職員の資質・能力向上 学び続ける教員 校内研究・校内研修・OJT の充実

・OJT、Off-JT を包括した教員の自己研鑽システムの構築

・チーム学校としての組織を活用したプロ意識を高めるための取組

・褒めて認める、自己肯定感の向上を目指す、心理的安全性のある学級経営

・研究主題「関わり合い、認め合い、未来を拓く子供の育成」の校内研究への取組

・東京都教育委員会 人権尊重教育推進校の指定を受けた研究、研究発表会(R9)

・STEAM 教育、探究学習、人権尊重教育に関わる研修会、ワークショップ、フィールドワーク等を実施

・「いじめ防止」「不登校対策」「特別支援教育」「人権教育」「特別の教科 道徳」「アレルギー対応」などの研修会を通じた共通理解のものと共通実践

・都や区の研修受講者による還元研修を実施

・個々の経営参画意識の高揚、経営会議の開催

・柔軟な視点に立った分掌編成、学級編成(単年度改編)

② 授業力の向上

・個々の教員の専門性やよさを生かした授業実践

・単元のゴールを明確にした単元のデザイン力向上

・好奇心を刺激し、発見の喜び、驚きや感動を生む授業、「おもしろい」「なぜ」「分かった」「できた」「もっとしたい」などのつぶやきがある授業づくり

・各教科、学級活動、道徳科、学校行事などをカリキュラム・マネジメントした年間計画を作成し計画的に実践。

・週案を活用した見通しのある指導計画作成(本時のねらい・配慮事項の明記、意図的・計画的な指導の実施)

③ 働き方改革の達成を目指した校務内容の精選及び自己管理能力の向上

・副校長アシスタント、教員支援員、学校特別支援員、登校支援員等の人材活用

・C4th「会議室」「掲示板」を活用した、ペーパーレス、会議の精選

・校務見直し、組織効率化による校務軽減、前年度踏襲ではない提案制度、ライフ・ワーク・バランスを考えた働き方、定時退勤の自己設定

・教職員自らが、法令に従うのはもちろん、言語、服装、行動など、教職員としての自覚をもち、常に笑顔で人と接することができる心と体の健康

(5) 自分らしく生き生きと生きるための学びを支援

○特別支援教育の充実

○いじめ対応、不登校への支援の徹底

○相談・支援機能の充実

① 特別支援教育の充実

・特別支援教室(サポートルーム)の拠点校、ABA(応用行動分析)による支援で、特性に配慮した教育、一人一人に向き合う教育の推進

・サポートルームの教員と学級担任が協働することによる、こどもが抱える困難さを改善し、学習能力や集団適応能力の伸長

・校内委員会を月に1回開催、配慮を要する児童の共通理解

・教育相談的手法を生かした、こども一人一人に寄り添う適切かつ迅速な支援、こどもの不安や悩みの緩和

・特別支援教育コーディネーターやスクールカウンセラーを中心に、就学支援シートを活用した個別指導計画の作成・実施を着実

② 不登校対策・いじめ防止・自殺防止教育の充実

・児童や保護者のメンタルサポートとして、スクールカウンセラーの相談活動を充実

・登校支援員を配置し、一人一人の児童に合った登校しやすい環境づくり

・学校特別支援員、学校特別補助員の効果的な配置

・特別の教化道徳、学級活動などでの「心の教育」の実施

・6年生には「SOS の出し方について」を指導する

・いじめや不登校など、心の悩みへの早期発見・対応をするため、6月、11月、2月には学校生活アンケートを実施
相談ポストを校長室前に常時設置

・「羽田小学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止に向けた組織的対応

・スクールカウンセラーや関連諸機関と連絡・情報交換及び保護者との連携指導

・家庭との連携を深める教育相談の充実

・学校に相談しやすい環境づくり、家庭との連携を深めた児童理解

・傾聴を大切にした相談体制

・個別相談によるいじめ見逃しゼロ、不登校ゼロ

- ・いじめは、いつでもどこでも起こりうるものと認識し、いじめの見逃しゼロ、早期発見・早期対応の徹底
- ・スクールソーシャルワーカーや適応教室つばさ、子ども家庭支援センターとの連携を図り、不登校の未然防止及び解決に向けての取組の充実
- ・虐待、暴力などの情報は、子ども家庭支援センター、児童相談所などへ報告

(6) 柔軟で創造的な学習空間と安全・安心な教育環境

○魅力ある学校施設の整備

○可能性を引き出す学習環境の充実

○安全・安心の確保

① 学校のきまりについて継続した指導

- ・日常より、児童の規範意識を育てるため学校のきまり「羽小スタンダード」を全教員が共通理解
- ・自分自身を守るためのこどもに考えさせる安全指導及び安全点検の徹底
- ・生活指導部を中心とした問題行動への迅速な対応
- ・どんなときも「話を聞く姿勢」をきちんと身に付け、落ち着いて行動することを基本に、事故・けがの未然防止と早期対応
- ・訓練を生かした災害時の安全な避難行動

② 事故・怪我の未然防止

- ・日常から細心の注意をはらった施設・設備の安全点検
- ・素早く、誠意をもって行う事後対応
- ・「報告・連絡・相談」の習慣化
- ・首から上のけがは、必ず保護者に連絡するとともに、誠意をもった対応で、児童や保護者が安心できるような丁寧な初期対応
- ・緊急時に備え、全職員が活用し、いざという時に、慌てず、冷静に、判断・行動ができるようにする緊急事態（事故、けが、食物アレルギー、自然災害等）を想定したマニュアルを整備
- ・服務事故防止研修及び人権尊重に基づく児童・保護者対応研修の毎月実施

(7) 学校・家庭・地域の連携・協働による地域コミュニティの核としての学校づくり

○コミュニティ・スクールの推進

○家庭と連携した安全・安心な環境づくり

○家庭教育への支援

① 学校の発信力を生かした「開かれた学校」の取組の充実

- ・毎学期、土曜日を含む学校公開日を設定し、日頃の学習活動を家庭・地域に示し、教育活動への理解を促進
学校公開実施後アンケートによる授業改善
- ・PTA活動を抜本的に見直し、できる人ができる時に活動できる体制づくり
- ・基礎・基本を確実に身に付けさせるための学習環境及び家庭学習習慣の確立
- ・保護者向け情報モラル研修

② 学校運営協議会と地域学校協働本部「はねサポ」

- ・育てたい力、健全育成の推進、学校評価関係者評価などを行い、協議したことを学校の教育活動に確実に生かすため、年間6回、学校運営協議会を開催。
- ・年間2回程度の学校運営協議会委員とII町会長との連携のための交流会・懇談会開催
- ・「スクールサポートHANEDA」（はねサポ）・PTA、羽小なでしこ会等との効果的な連携による地域資源の活用
- ・羽田空港、商店会、町会、羽田青年会連合との連携
- ・「羽田おおたっ子ひろば」と協力した、児童の放課後生活の充実
- ・祭り学習など、地域の特色である羽田の文化伝統にふれる機会を設け、体験的な活動を通じた、地域愛の育成

・地域の特色ある場所やお店の見学、地域の行事等への参加を通して、地域の人との関わり、地域の歴史、文化等への理解、地域の一員としての自覚の育成

③ 自然災害対策

・学校防災活動拠点の強化

・「災害に立ち向かう学校」としての役割を担った備蓄倉庫の整備、避難訓練への参加など、地域町会との連携

・児童への防災指導、ボランティア精神を養う指導を行い、地域に貢献できる児童の育成

・地域連携防災訓練 全児童・保護者・II町会、関係諸機関とともに、10月10日「羽田まちぐるみ BO 祭～羽小防災の日」の設定

・地域と連携した安全・安心な環境づくり、交通安全運動等、まちぐるみでこどもを見守る「見守り藤兵衛プロジェクト」

④ 魅力ある教育活動の創意と積極的な情報発信

・学校ホームページの充実

・学校掲示板、学校だより、保護者連絡アプリ「tetoru」の活用

(8) 生涯学び続ける環境

○学校図書館機能の充実

○多様な学習機会の提供

○文化財保護

・「朝読書」や翼の会による「読み聞かせ」、「読書週間」を通じた読書活動

・読書学習司書を活用し、読書環境の整備、並行読書の実施、羽田図書館からの団体貸し出しの継続

・学校図書館を活用し、探究学習と連携した読書活動の授業を充実

・羽田のふるさと絵本の活用

・地域と羽田小学校の歴史、旧羽田旭小学校の歴史を刻む展示室の充実